

授業科目	心理学				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	CH10401J		
開講年次	2	開講時期	後期	該当DP	DP1-1			
担当教員	命婦 恭子							
授業概要	誰ももっているのによくわからない“心”について解説する。 認知、感情、文化、社会、発達、パーソナリティ、健康といったキーワードについて、進化的視点から理解することを授業の基本的なコンセプトとしている。							
学生が達成すべき行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの心理的要素について、進化的視点から考えることができる。 ・社会での出来事について心理学的視点から考えることができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	0	50	0	100	
知識・理解 (DP1-1)			50		50		100	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの心理的要素について、進化的視点から考えることができる。 ・社会での出来事について心理学的視点から考えることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの心理的要素について考えるときに、進化的視点を意識することができる。 ・社会での出来事について考えるときに、心理学的視点を意識することができる。 				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション			講義		講義内容の復習		15

	心理学とは何かについての概説と授業の進め方について			
2	人の進化 進化の視点から人の心について考える	映像資料を用いた 講義	講義内容の復習	15
3	思考 何を考え、どう考え、なぜ考えるか	映像資料を用いた 講義	講義内容の復習	15
4	好奇心と動機付け	映像資料を用いた 講義	講義内容の復習	15
5	社会性1 共感性と利他行動	映像資料を用いた 講義	講義内容の復習	15
6	社会性2 感情理解	映像資料を用いた 講義	講義内容の復習	15
7	健康1 健康行動と動機付け	講義	講義内容の復習	15
8	健康2 ストレス	講義	講義内容の復習	15
9	健康3 ストレスコーピング	講義	講義内容の復習	15
10	ヒトと疫病の関係	映像資料を用いた 講義	講義内容の復習	15
11	乳児の様々な能力	映像資料を用いた 講義	講義内容の復習	15
12	記憶 日常を支える記憶のメカニズム	映像資料を用いた 講義	講義内容の復習	15
13	パーソナリティ理論とパーソナリティのセルフモニター	講義	講義内容の復習	15
14	心理学の歴史と方法	講義	講義内容の復習	15
15	講義のまとめ	講義	講義内容の復習	30
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	ヒトについて、他の生き物たちと比較しながら考える。			
テキスト	指定しない			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	板倉昭二 2007 心を発見する心の理論 京都大学学術出版会 京都大学心理学連合 2011 心理学概論 ナカニシヤ出版 フランシス・ドゥ・ヴァール 2010 共感の時代へ 平田聡 2013 仲間とかかわる心の進化 岩波書店 金井良太 2013 脳に刻まれたモラルの起源 岩波書店			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	自分の行動や他者の行動について、授業で得た知識を用いて考えると授業内容への理解が深まる。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	レポート(50%)とレポート外の提出物(50%)で評価する。			

